

野村証券
 フィデューシャリー・マネジメント部
 木須 貴司

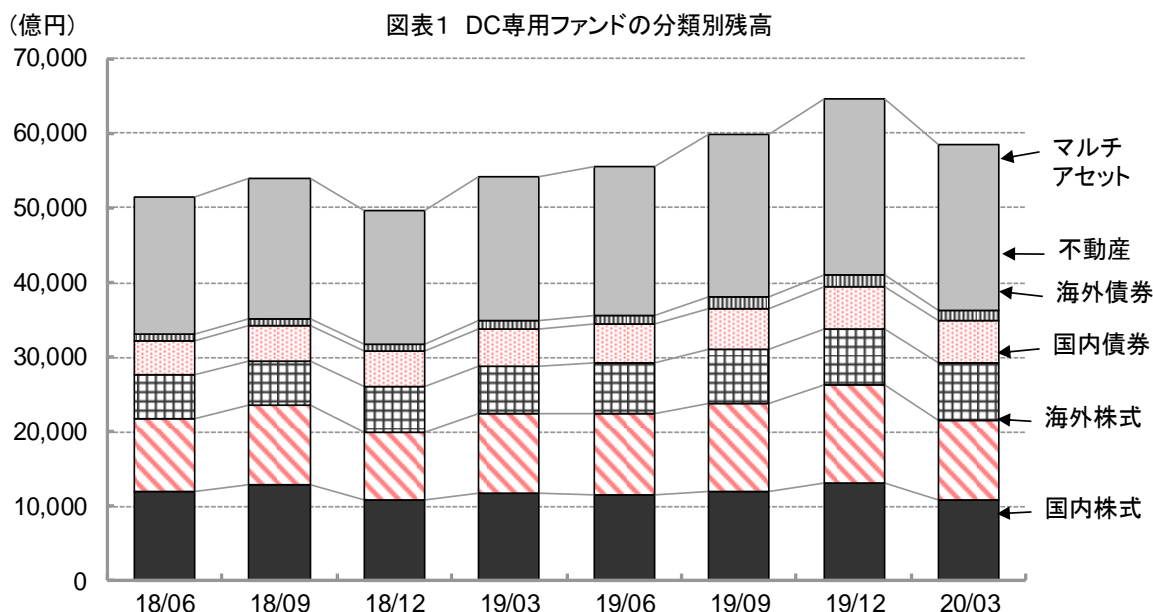
確定拠出年金専用ファンドの動向(2020年3月)

2019年度第4四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は5兆8,592億円となり、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた株価の下落などにより、残高は減少しました。収益率をみると、株式などのリスク性資産の収益率が大幅なマイナスとなり、株式の組み入れが一定程度あるマルチアセットも収益率がマイナスとなりました。資金流入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で1,891億円が流入しています。分類別では、マルチアセット型への資金流入が最も多く、1,113億円が流入しました。

確定拠出年金専用ファンドの残高

2019年度第4四半期(1月~3月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は5兆8,592億円と、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた証券市場の混乱により、前四半期から10%程度減少しました(図表1)。

海外債券以外の資産は、残高が減少し、特に国内株式、海外株式はいずれも18%ほど残高が減少しました。マルチアセットも資金流入は一定程度あったものの、純資産の下落により5%減少し、残高は2兆2,344億円となりました。



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

分類別残高構成をみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の38.1%を占めています。内外株式の時価が下落したため、確定拠出年金専用ファンド全体の中でのマルチアセット型の比率は前四半期から上昇しました。マルチアセット型の中では、主に資産配分が固定されているバランス型が中心となっています。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ36.7%、23.0%となり、前四半期と比べて、前者は3.8%低下、後者は2.6%上昇しました。今期は、株式ファンドの時価が大きく下落したためです。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けると、国内資産を中心に運用するファンドの

残高割合は、31.5%と、前四半期に比べ0.5%減少しています。国内資産の比率は4四半期連続の減少です。海外資産を中心に運用するファンドは、前四半期から0.7%低下し、28.2%となっています(この比率はマルチアセットなどのハイブリッド型はいずれにも分類していません)。

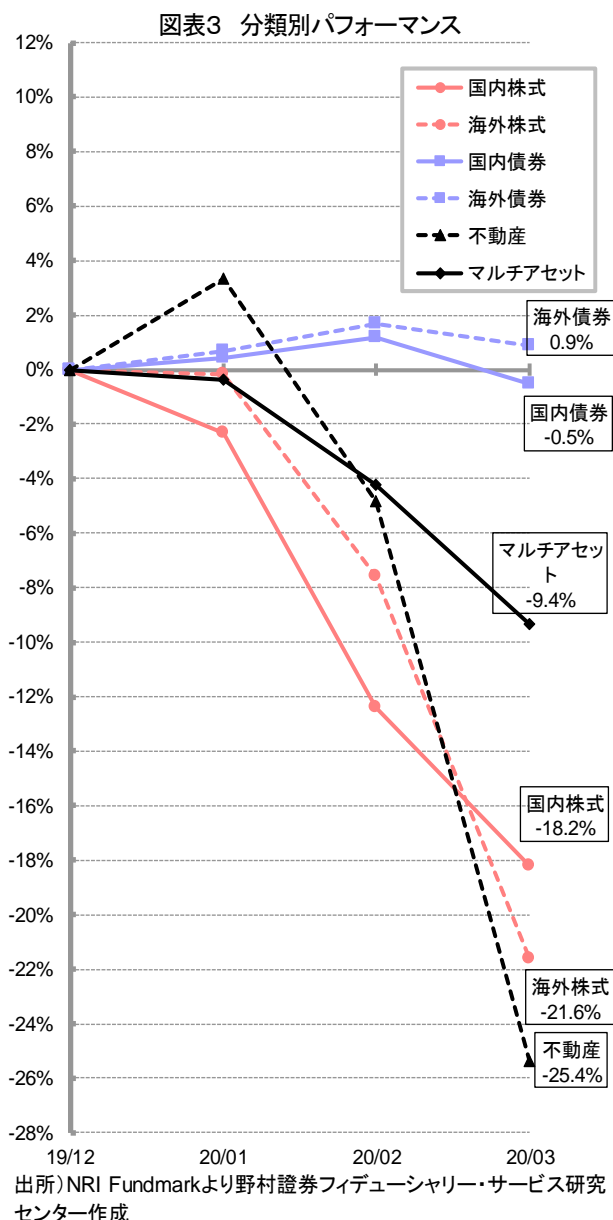
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は78.2%となり、前四半期から1.1%上昇しました。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	18/06	18/09	18/12	19/03	19/06	19/09	19/12	20/03
国内株式	12,030	12,826	10,797	11,731	11,544	12,063	13,113	10,808
アクティブ運用	4,590	4,870	3,973	4,321	4,259	4,390	4,755	3,814
パッシブ運用	7,440	7,955	6,824	7,409	7,286	7,673	8,358	6,994
海外株式	9,646	10,623	9,145	10,610	10,989	11,621	13,104	10,688
アクティブ運用	2,175	2,295	1,941	2,268	2,331	2,380	2,681	2,218
パッシブ運用	7,471	8,328	7,203	8,342	8,658	9,241	10,423	8,470
国内債券	5,988	6,031	6,200	6,479	6,727	7,320	7,615	7,643
アクティブ運用	896	895	913	950	981	1,005	1,008	1,003
パッシブ運用	5,092	5,136	5,287	5,529	5,746	6,316	6,606	6,640
海外債券	4,566	4,741	4,734	4,948	5,082	5,441	5,607	5,837
アクティブ運用	525	538	532	553	561	578	584	587
パッシブ運用	4,041	4,203	4,201	4,395	4,521	4,863	5,023	5,250
不動産	818	884	931	1,131	1,265	1,586	1,690	1,229
マルチアセット	18,369	18,968	17,862	19,301	19,837	21,887	23,573	22,344
バランス型	15,642	16,327	15,234	16,444	16,839	18,690	19,810	18,626
ターゲットイヤー型	486	340	354	369	397	429	474	460
アセットアロケーション型	2,240	2,301	2,274	2,488	2,601	2,768	3,289	3,258
残高合計	51,456	54,113	49,709	54,241	55,486	59,961	64,746	58,592
残高割合								
国内株式	23.4%	23.7%	21.7%	21.6%	20.8%	20.1%	20.3%	18.4%
海外株式	18.7%	19.6%	18.4%	19.6%	19.8%	19.4%	20.2%	18.2%
国内債券	11.6%	11.1%	12.5%	11.9%	12.1%	12.2%	11.8%	13.0%
海外債券	8.9%	8.8%	9.5%	9.1%	9.2%	9.1%	8.7%	10.0%
不動産	1.6%	1.6%	1.9%	2.1%	2.3%	2.6%	2.6%	2.1%
マルチアセット	35.7%	35.1%	35.9%	35.6%	35.8%	36.5%	36.4%	38.1%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成されたものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



分類別パフォーマンスの推移

図表3は2019年度第4四半期におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受けて、景気後退への懸念から、株式や社債などのリスク性資産の価格が下落しました。国内株式、海外株式の収益率はそれぞれ-18.2%、-21.6%とリーマンショックが発生した2008年以降の四半期収益率としては最も大きな下落となりました。

また、今四半期は、国内株式ではアクティブファンドの収益率の平均がパッシブファンドの収益率の平均を下回りました。その一方、海外株式では、アクティブファンドの収益率の平均がパッシブファンドの収益率の平均を上回りました。新興国株式パッシブファンドが先進国株式ファンドよりも大きく下落したためです。

マルチアセット型については、平均すると-9.4%の収益率となりました。株式の組み入れが大きく、新興国株式・債券あるいはREITなどの配分が大きいファンドほど下落が大きくなりました。不動産(REIT)は、株価下落の影響を受け、-25.4%と主要資産の中では最も価格が下落しました。

海外債券は、リスクオフの流れや主要国の利下げにより金利低下が低下し、価格が上昇しました。一方、国内債券については組み入れられている社債の価格が低下し、マイナスとなりました。

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	19/01~ 19/03	19/04~ 19/06	19/07~ 19/09	19/10~ 19/12	20/01~ 20/03
国内株式	97	51	142	-7	68
海外株式	208	263	612	161	491
国内債券	198	190	573	373	70
海外債券	109	119	294	80	186
不動産	98	121	168	103	-36
マルチアセット	471	528	1,738	767	1,113
資金純流入合計	1,182	1,272	3,528	1,478	1,891

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2018年度第4四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第3四半期)に比べると709億円増加し、1,891億円となりました。前四半期と比べても、資金流入額は増加しました。

内外株式などのリスク性資産が下落した中で逆張りのリスク性資産を組み入れる動きが一定程度あったものと考えられます。

— 次号のお知らせ —

次号は

5月11日(月)

発行予定です。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.43%(税込み)(20万円以下の場合は、2,860円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。